

牛久：学校周辺に見る自然

第18号 ひたち野西近隣公園

2011年6月24日発行

< 梅雨の晴れ間に、水辺公園を歩く >

梅雨の晴れ間の6/9、中根小からひたち野うしく小への移動途中、ちょっと時間があつたので、ひたち野西近隣公園（通称 水辺公園）に寄って行きました。短時間でしたが、いろいろな草木の花やそこに集まる昆虫たちがみられました。



まずは、エゴノネコアシ。どれもまだ発達途中でしたが、着実に「猫足」が形作られていきます。この虫こぶの正体は22年度第35号で詳しく説明していますが、アブラムシ

シ(エゴノネコアシアブラムシ)が寄生してできたものです。右の黒っぽいのは、昨年つくられた虫こぶ。右上のカットはこの日見られた中で比較的大きくなっていったもの。そして、左の若い虫こぶの隣に咲いているのがエゴノキの花ですが、よく見て下さい。通常の5つに深く裂けた花冠の外側に、もう一つ小さな花のようなつくりがあるのです。これもアブラムシに寄生された影響なのでしょうか？

次は、ハコネウツギの花にもぐり込んで、その奥にある蜜を吸っていくトラマルハナバチ。花から出てきたところを写しましたが、頭が花粉だらけですね。蜜をごほうびに、別のハコネウツギの花へと花粉を運んでもらっていたのです。よい種子を確実につくるための工夫なのですね。他にハナバチ

の仲間も来ていました。



トラマルハナバチみ(左)とハナバチの仲間(右)



さて、「水辺」といえばトンボ
ですね。まだあまり多くはいま
せんでしたが、その中で目立っ
たのはコシアキトンボでした。
いつも飛び回っていて、なか
なかうまく撮れませんでした。そ

コシアキトンボのメス（左）とオス（右）

の他、シオカラトンボやアオモンイト
トンボも来ていました。春にひたち野うし
く小4年生が、ヒキガエルのオタマジャ
クシを観察した岸辺です。



アオモンイトトンボ(左)とシオカラトンボ♂(右)

同じ岸辺に、ナミアゲハも吸水に来ていました。あ
まりきれいとも思えない湿った泥にストローを差し込んで
は水を吸っていました。近くで写真を撮っていてもかま
わずに、いつまでも吸っていました。

ストローを伸ばして吸水するナミアゲハ



最後に周辺で見られた帰化植物（外国からやってきて、日本にすみつくようになった植物）を3種。



左のピンクの花は、ムシトリナデシコ。「虫捕り」
といっても食虫植物ではないそうです。ナデシコ
科でヨーロッパ原産。江戸時代に観賞用に導入さ
れたものが野生化したと考えられているようです。
ハナバチの仲間が蜜を吸っていました。

左下はオオキンケイギク。北米原産でこれも栽
培されていたものが野生化したそうです。繁殖力
が強く生態系への影響が大きいと、2006年から「特



定外来生物」に指定されています。『帰化植物
を楽しむ』近田文弘・清水建美・濱崎恭美 編
(トンボ出版)によると、ひたち野うしく駅の
駅舎周辺にできたお花畑から、自動車道路の
中央分離帯沿いに分布をひろげたようです。

最後に右はヤマモモソウ。別名ハクチョウ
ソウとありますが、「白鳥」ではなく「白蝶」
に似ているからだそうです。これなども、オ
オキンケイギクと同様のようには思えます。

緑化について考えさせられる一例でした。

【理科支援員 宮内】

